

はじめに

本書は、たくさんの**プログラムリスト**や**図表**に触れながら、C言語の基礎を学習するためのテキストです。

英語などの語学を習得する過程では、単語や文法とともに、実際の会話や文書における利用例・応用例など、多くのことを学習しますね。

プログラミング言語でも事情は似ています。キーワードやライブラリ関数などの語句や文法規則などの学習は必要不可欠であり、それらを知ることなく、プログラムを作成することは不可能です。

そのためなのでしょう。文法事項を解説した後に、単なる“オマケ”のような感じで数行程度の部分的なプログラムばかりを示して、実際にコンパイル・実行できる〔**完成したプログラム**〕をほとんど提示しないテキストが溢^{あふ}れているようです。

そのようなテキストから〔**生きたプログラム**〕が学習できるとは思えませんし、事実、つまらなく感じる学習者も多いようです。

単語や文法だけを知っていても文書を書いたり会話ができないのと同様に、**断片的な知識だけでは、プログラムを作成できるようにはなれません。**

本書は、164個もの図表を用いて、文法や難解な概念を分かりやすく解説するとともに、190編ものプログラムを示しています。

プログラム数が多いということは、語学のテキストでいえば、単語や文法を応用した、**会話文や例文がたくさん示されていることに相当します。**数多くのプログラムに触れて、C言語のプログラムになじみましょう。

本書は、全編を語り口調で説いています。私の講義を受講しているような感じで、お付き合いいただければ幸いです。

平成16年7月

柴田 望洋

本書の構成

本書は、以下に示す 13 の章と二つの付録から構成されます。C 言語を学習する際に、決まりきった学習順序があるわけではありませんが、比較的簡単なところから始めて、少しずつ応用的な内容に移行するようにしています。

- 第 1 章 まずは慣れよう
- 第 2 章 演算と型
- 第 3 章 プログラムの流れの分岐
- 第 4 章 プログラムの流れの繰り返し
- 第 5 章 配列
- 第 6 章 関数
- 第 7 章 基本型
- 第 8 章 いろいろなプログラムを作ってみよう
- 第 9 章 文字列の基本
- 第 10 章 ポインタ
- 第 11 章 文字列とポインタ
- 第 12 章 構造体
- 第 13 章 ファイル処理
- 付録 1 C 言語の紹介
- 付録 2 printf 関数と scanf 関数

*

ひと通り学習が終わった後に、いつでも〔調べもの〕ができるように、詳細な索引を付けています (p.328 ~ p.338)。

(座右の書とはいかなくても) 日頃から手の届くところにおいて、ご愛用いただけると幸いです。

本書は、1998 年 (1999 年) に出版した『(定本) 明解 C 言語 入門編』に第 13 章を加えるとともに、若干の修正を行ったものです。